

特集「地域医療の課題と未来」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科
医療フロンティア展開学

加 藤 則 人



日本だけでなく、世界の国々で出生率の低下と人口減少、高齢化が加速している。また、人口の都市部への偏在が進んでいる。そして、人口の減少・偏在と高齢化が医療におよぼす影響は、とくに地方において顕著である。

地方の過疎化に伴う公共交通機関の減便・廃止やラストワンマイル問題による通院負担の増加は、高齢者単独世帯の増加と相まって、受療や緊急時対応に遅れが生じ病状を悪化させる可能性がある。高齢者では服薬など治療アドヒアランスの低下による病状の悪化も懸念される。また、医師や看護師を含めてさまざまなメディカルスタッフの数が減少すると、医療の質と安全を担保できるかが大きな課題になる。メディカルスタッフのスキルアップやワーク・ライフ・バランスも、果たすべきテーマとしてこれまで以上に重要性を増している。これらの多くの課題を解決するための方策として、医療機関の集約化や地域包括ケアの強化などの医療資源の効率化は必須である。加えて、オンライン診療や医療 MaaS (Mobility as a Service) 車両をはじめとして、さまざまなデジタル技術も活用して新しい医療を構築していくことが必要であろう。

京都府立医科大学の理念は「世界トップレベ

ルの医学を地域へ」だが、これは地域から世界トップレベルの医学・医療を発信することも意味していると考えられる。地域での診療で生まれた疑問や気づいた課題、あるいは今後直面するであろうと考えた様々な課題に対して、自ら研究をはじめとする手段によって解決策を見つけ、世界に発信していくことは、京都府立医科大学の使命である。

本特集号では「地域医療の課題と未来」をテーマにしました。京都府立医科大学・総合医療・地域医療学の四方哲先生には「地域医療教育と地域医療研究について」、同・京都府発達行動医学講座の栗原康通先生には「発達障害診療からみた小児地域医療の構築に向けた課題」、同・京都府総合医療・地域医療学の丹羽文俊先生には「現代の地域医療における課題とヘルスリテラシーの重要性」、京都府健康福祉部の奥田司先生には「地域医療の課題と未来 ～行政の立場から～」、市立福知山市民病院の阪上順一先生には「地域医療の課題と未来—病院」と、地域医療に関係する各領域のエキスパートの先生方に、それぞれの分野の最新のトピックスと未来に向けた課題を中心に解説していただきました。本特集に書かれた情報を日々の診療に役立てて頂ければ幸いです。